

酒と涙とジキルとハイド

作・演出：三谷幸喜

笑いのジェットコースター、再び発進!

ひとくちにコメディと言ってもさまざまで、笑って泣けるものもあれば、笑ったあとに深く考えさせられるものもある。とりわけつくるのが難しいのは、笑いによって笑いを生み、観た後に何も残らない純粋なコメディではないだろうか。コントのように短ければまだしも、ひとつの演劇作品として一定以上の時間を笑いにつなげていくのは大変で、そんなセンスや技術の持ち主は多くない。でも大丈夫、日本には三谷幸喜がいる。

2014年に上演された『酒と涙とジキルとハイド』はまさにそんな三谷節炸裂の1本。かの有名な『ジキル博士とハイド氏』の入り口だけほんの少し借りたストーリーは、人格が別になる薬を発明し損ねたジキル博士(片岡愛之助)が、失敗をごまかすため俳優(藤井隆)に別人格のハイドを演じるよう依頼。しかしジキルの婚約者(優香)がなぜかその薬で、貞淑なイブから奔放なハイジに変身するようになってしまい混乱は加速して……というもの。嘘と勘違い、間の悪さと間違いが、縦糸と横糸のように織り上げられていき、

次第に登場人物の身動きが取れなくなってしまう様子が、いちいちおかし。

大好評を受けての再演は、多忙なキャスト全員が奇跡的に揃い、初演からさらに息の合った笑いをつくり出してくれるはず。また今回は、台湾国際芸術フェスティバルに招聘され、日本公演に先がけて台湾での上演がある。追い風を受け、笑いのエンジンに油が回った舞台が観られることだろう。

文：徳永京子

4月27日(金)～5月26日(土) プレイハウス

詳細はP10へ

※3月30日(金)～4月1日(日) 台湾・台北公演あり

作・演出：三谷幸喜

出演：片岡愛之助／優香／藤井隆／迫田孝也

Musician：高良久美子／青木タイセイ



モダンスイマーズ 句読点三部作連続上演

作・演出：蓬萊竜太

過去を振り返って 未来をつくる、異例の挑戦

劇団員数がひと桁の小劇場の劇団にとっては、かなり思い切った挑戦だ。座付き作・演出家の蓬萊竜太を筆頭に、劇団員がそれぞれ活躍。また、チケット料金を一般向けでも3000円に抑えるなどの工夫をしながら活動を続けているモダンスイマーズが、過去の本公演3作を連続で、1ヵ月おきのペースで上演するという。まだ記憶に新しい2016年の『嗚呼いま、だから愛。』、2015年の『悲しみよ、消えないでくれ』、そして2013年の『死ンデ、イル。』を、「句読点三部作」と銘打ち、新しい順に再演していく。

3作は同じテーマを扱ったり、特徴的な演出で統一されたものではない。けれども骨太なストレートプレイから、いくつかの実験的な手法を経由して、今を生きる人間にじっくり向き合い、小さなほころびを丁寧にすくう近年のモダンスイマーズのスタイルが、誕生し、成長し、確立したのがこの3作。蓬萊が目を向けるようになった生きている人間のリアリティは、福島震災と原発事故により仮設住宅に暮らすことになった女子高生を中心に置いた



『死ンデ、イル。』から明らかに変化し、今に至っている。その分岐点に向けて自分たちの作品を振り返る作業は、間違いなく新しい刺激を劇団にもたらさず。もちろん、モダンスイマーズを知る観客にも、初めて観る観客にも。

キャストは「この役にはやっぱりこの人」という俳優が再登場したり、ガラリと変わったりするらしい。詳細の発表を楽しみに待ちたい。

文：徳永京子

シアターイースト

詳細はP10・P13へ

4月19日(木)～29日(日・祝) 『嗚呼いま、だから愛。』

6月 7日(木)～17日(日) 『悲しみよ、消えないでくれ』

7月20日(金)～29日(日) 『死ンデ、イル。』

作・演出：蓬萊竜太

イキウメ

図書館的人生Vol.4 襲ってくるもの

作・演出:前川知大

前川知大のエッセンスが一度に何作も楽しめる

演劇界の大きな賞を受賞するのは、イキウメにとって毎年恒例のようになっているが、昨年は『天の敵』と『散歩する侵略者』で紀伊国屋演劇賞の団体賞を受賞。また、お互いにほぼ無名の頃から美術を担当してきた土岐研一が、やはり『天の敵』と『散歩する侵略者』を評価されて読売演劇大賞の最優秀スタッフ賞を受賞。戯曲を提供した『関数ドミノ』に主演した瀬戸康史が文化庁・芸術祭賞新人賞を受賞。さらに、念願だった『散歩する侵略者』が黒沢清監督の手によって映画化され、毎日映画コンクールで長澤まさみが主演女優賞、高杉真宙がスポニチグランプリ新人賞を受賞と、喜びの輪が外へ外へと大きく広がった1年となった。

そうした手応えを積み重ねるイキウメの今年の劇団公演は、人気シリーズの第4弾、『図書館的人生Vol.4 襲ってくるもの』に決定。『図書館的人生』は、2006年から不定期で上演されている前川知大のエッセンスが一度に何種類も楽しめる短編集。ここで発表されたのちにフルスケール作品になるものもあり、熱い注目を集めている。知的で淡々としたテンションの日常が、あるところからぐにやりと曲がり、不思議な風景がじわじわと色濃くなっていくイ



獣の柱 まとめ*図書館的人生 (2013年)

撮影:田中亜紀

キウメワールドは、もちろん存分に堪能できる。

出演は、劇団員の他、もはやイキウメ常連組の小野ゆり子、昨年は劇団☆新感線でアクションを決めた清水菜月、初参加の田村健太郎、千葉雅子が顔を揃える。

文:徳永京子

5月15日(火)~6月3日(日) シアターイースト

詳細はP12へ

作・演出:前川知大

出演:浜田信也/安井順平/盛隆二/森下創/大窪人衛/
小野ゆり子/清水菜月/田村健太郎/千葉雅子

COMING UP NEXT 2018.7-9

演劇・ダンス ラインナップ



藤田貴大

撮影:藤山紀店

7月16日(月・祝)~26日(木)
プレイハウス

藤田貴大 新作「BOAT」

作・演出:藤田貴大

8月18日(土)~9月2日(日)
シアターイースト

ハイバイ「て」

作・演出:岩井秀人

8月23日(木)~9月2日(日)
シアターウエスト

ハイバイ「夫婦」

作・演出:岩井秀人

9月13日(木)~23日(日・祝)
シアターイースト

グループる・ばる
「蜜柑とユウウツ
~茨木のり子異聞~」

作:長田育恵 演出:マキノゾミ



2016年來自公演
「ヨブの話—善き人のいわれなき受難」homme de Hus」

撮影:OLIVIER CHAMBRIAL

9月下旬予定
シアターイースト

カミーユ・ボワテル「MA一間」